

火災の出火原因のトップは

電気器具の取り扱い不注意

六十二年 消防白書



広域市町村圏組合消防本部では、六十一年中の火災発生状況と救急車の出動状況をまとめました。これによると当市での火災発生件数と損害額は、前年に比べ減少しました。また、救急車の出動件数は、前年に比べ二十四件増加となりました。

火災件数、損害額とも
過去三年間で最低

六十一年中の当市の火災発生件数は二十三件、損害額は九千八百三十万一千円と過去三年間で最低となりました。しかし、これらの火災により、死者二人、負傷者三人の犠牲者が出ています。

また、火災発生を月別に見ると一月が六件で最も多く、続いて十二月の三件で冬期間の火気を使用している時期に多発しています。



火災原因ワースト3

【61年中】

- 1位 電気器具(配線劣化含む) 5件
- 2位 放火(自損行為も含む) 3件
- 3位 枯れ草焼き 2件

【60年中】

- 1位 薪ストーブ 5件
- 2位 石油ストーブ 3件
- 2位 ガスコンロ 3件

出火原因では、換気扇のダクトに鳥が巣を作っていたことを知らずに使用し、モーターが過熱したり、電気コンロをこたつの中に入れて使用していた、修理を要する電気アンマ器等などを安易に使っていた、電気コードに強い圧力が加わり過熱したなど電気器具の取り扱い不注意から火災が発生したケースが多くありました。このほか放火(自損行為も含む)が三件、枯れ草火災、子供の火遊び、仏壇のローソクの火の不始末などが出火原因となっています。火の元には十分注意をお願いします。

一日に二・六件
救急車の出動回数

六十一年中の大館市の救急車の出動回数は九百五十九件で、前年より二十四件の増加で、一日に二・六件の出動となっています。事故種別による出動件数では、急病が五百三十四件で最も多く、続いて交通事故、一般負傷、転院、労働災害などの順となっています。

火災を
起こさないために



▼たばこの火を小さく
いと思つてあなどるな

江戸時代からたばこ火による火災があったという話です。そして現代でも全国では火災原因第一位。今も昔もたばこ火をあなどっているようです。もうそろそろその危険性を知ってほしいころです。

▼童謡では、たき火の危険性は、
教えてくれない

「さざんか さざんか 咲いた
道 たき火だ たき火だ 落葉た
き」——情緒のある風景です。でも、このたき火もひとつ間違うと

◇61年中事故別
救急出動件数



また、出動しながら搬送拒否や誤報、いたずらなどで空もどりのケースも三十九件ありました。消防本部では、二台の救急車を配置して救急業務を行っています。生命にかかわる傷病以外の出動要請はしないように協力を呼びかけています。

火災のもと。たき火のマナーを心得ることが大切です。



▼ガスの火が凶悪な敵に変身することを忘れてはいけません

ガスの火は、生活のすみずみまで行きわたっている親しいエネルギー。ただし、ガスの火も火には変わらないというのを忘れずにコントロールを誤ると恐ろしい敵にもなるのです。家を出る前には必ず火の元点検を忘れずに。

市長の
対話ノート



No.148

まかぬタネは生えぬ

三月、それは別れと出会の月です。祝福されて社会に巣立つ。おめでたいことですが、クラスメートや恩師との惜別の悲しみもあります。また、社会人としての第一歩でもあり、人生にとって最も大切な新しい先輩や同僚との出会いとなるのもこの月です。ところで、その出会いで大切なことは、一つは一步踏み込むこと(可能な限り近く)、二つには豊かな表情(スマイル)、三つには目線を離さない(真意を伝える)ではないかと思えます。言い換えれば能動的であらうこと、「まかぬタネは生えぬ」ということでしょうか。つまり、タネはまいても全部は芽を出さぬ。芽を出しても全部育つて実をつけるとは限らない。ですからタネをまかないとすれば、それは始めから芽は生えないに決まっています。

どんな仕事でも多少のリスクはつきものです。そのリスクを恐れて仕掛けをしなれば、そこには何も生まれません。

巣立つ卒業生はもちろんですが、すべての市民にも共通する部分もあると思います。内にももっているのは前進はありません。失敗を恐れず果敢に挑戦してこそ、そこには新しいものを生み出す可能性が出て来るのです。

留山 健治郎